

令和5年11月22日

令和5年度 第1回 教育課程連携協議会 議事録

日時：令和5年11月22日（水）15：00～16：10

場所：アール医療専門職大学 体育館・講義棟 1階

出席者：中 徹学部長、縄井 清志学科長(理学療法学科)、中村 茂美学科長(作業療法学科)、浅川 育世(茨城県理学療法士会)、堤 美世子(土浦市保健福祉部高齢福祉課)、宮山 敬子(茨城県立水戸高等特別支援学校)、飯塚 拓也(茨城県私立幼稚園・認定こども園連合会)、浅野 信一(つくばセントラル病院)、山倉 敏之(筑波記念病院)、佐藤 弘行(茨城県リハビリテーション専門職協会)

議事録：植木 順一、武藤 莉奈（教育課程連携協議会 事務局）

1. 開会挨拶：学部長 中 徹
2. 協議会開催について
○資料「教育課程連携協議会について」参照
年2回、大学と産業界・地域社会が連携を図ることで、今後の教育課程を充実させていくために実施。
3. 構成員自己紹介
4. 資料確認
5. 議事

(1) 産業界及び地域社会との連携による授業科目の開設、その他の教育課程の編成に関する基本的な事項

○資料「教育課程などの概要」参照

本学は卒業単位 134 単位（必修科目：116 単位 選択科目：18 単位）である。他大学は主に 124 単位。

職能レベルを上げる、多様に働けるように科目数を多く設定している。

・単位について

本学では多くの科目が 15 コマで 1 単位を取得することができる。

8 コマで 1 単位取得できる科目も混じっている。

学生にとっては取得すべき科目が多いため、現状では学生も奮闘しながら授業に取り組んでいる。

・科目について

基礎科目：一般教養といわれる科目、選択科目も組み込んでいる。1 年次に開講されるものがほとんどである。

職業専門科目：ほとんどが必修科目である。

展開科目：将来の職域を拡大していくことができるような科目。

総合科目：卒業研究となる。応用理学療法学演習は国試対策。

地域理学療法学・地域作業療法学も手厚く入れている。

○履修状況

・資料「令和 5 年度履修状況」参照

英語コミュニケーションⅡ（選択科目）

作業療法学の学生が多く選択している。理学療法学科も 4 割ほど選択。選択科目は前期に取得する学生が多いが、英語は後期に開講されている。そのため、自主的に選択している学生が多いのではないか。

選択科目もすべての科目で開講している（受講数 0 の科目はない）

韓国語は今の時代を反映しているのではないか

GPA に関しては、1 年生はもう少し上がることを期待したい。

今後 3.0 を超えるよう目指したい。

(2) 産業界及び地域社会との連携による授業の実施、その他の教育課程の実施に関する基本的な事項及びその実施状況の評価に関する事項

○地域に関する科目

必修科目：地域創生論、世代間交流論、リーダーシップマネジメント論などは触れる機会が少ない分野のため、単位を落としてしまう学生もいる。

○実習関連

理学療法・作業療法臨床実習について

・通所訪問リハビリテーション実習（1年生）

理学療法士が常駐している施設、通所施設（老健、デイサービス）、療育センター、訪問リハを見学する5日間の実習。

実習前後で、教員が礼儀作法・身なり・立ち居振る舞いなどの模擬練習を行っている。

・臨床実習Ⅰ（2年生）

1年生の通所訪問リハビリテーション実習の後に実施。

初期的に患者様と具体的に接する実習となる。

臨床実習Ⅰにおいても、実習前後に教員と所作の模擬練習をおこなう。

○実習の感想

・資料「実習における学生の感想」参照

【1年生の感想】

現場の理学療法士・作業療法士による患者様への接し方を学んで感じ取ってきていた。

医療保険・介護保険の違いを学んだ。

【2年生の感想】

コミュニケーションの方法を学び、他職種についても幅広く見ることができていた。

実際に目の前にして気づきを得ている学生が多い。

○早期体験実習

早期体験実習Ⅰ：1年生、早期体験実習Ⅱ：2年生

今年は1・2年生合同で行う（小児部門と高齢部門の両方）

実習の一環として、土浦市産業祭、シルバーリハビリ体操にも学生を配置している。

本学体育館にて「介護予防事業」を実施。現在5名の申し込みをいただいている。

(3)実習協力施設に関する事項

○通所訪問リハビリテーション実習、臨床実習、早期体験実習先リスト参照

通所訪問リハビリテーション実習、臨床実習：理学療法士が常駐している施設への実習

早期体験実習：理学療法士が常駐していなくてもよい

(4)その他

6. 質疑応答

浅野様

議題にある産業界及び地域社会との連携の「産業」について

ジョブコーチ（就労支援）の研修を受けた。

そこで感じたことはP T O Tの授業は医学的リハビリテーションに重きが置かれている。

産業界・地域社会と結びつけると就労支援事業への学びが必要になるのではないかと。

企業の障がい者雇用の担当の方、就労支援施設の方による講義を展開科目に入れるとよいのではないかと。

学生のうちに職業リハビリテーションや就労に関する支援にP T O Tが関わり、ともに連携していくことを目指していくとよいのではないかと。

中村先生

O Tは就労支援事業所の実習が授業に組み込まれている。

P Tにも組み込んでいくか検討したい。

卒業生の中には就労支援事業所で働いている人もいます。

卒業生を支援できるようなサポートをしていきたい。

浅野様

企業の人や現場の人の話を聞く機会があるとよいのではないかと。

中先生

就労支援については特別支援学校の方は実際行なっていることが多いのでは。

宮山様

就労の子たちは実習に行き、帰ってくると多くの気づきを得ている。

よいカリキュラムであると思う。

そのための教員によるサポートも大事である。

何が求められているのか教員も知ることができる。

本学のカリキュラムの中ではアクセシビリティリーダー論に興味がある。

また、どんな最新技術があるのか知ること、適切な対応ができるため学ぶことが大事である。

織姫(遠隔ロボット)をつかって寝たきりでも就職できる時代でもある。

そういう働き方も現実になってきている。

障害がある方の職場が広がってきている。そのような場にP Tも関わって

いる。

最新の情報技術を知っている人がくると、教育と医療が結びつくのでそういった授業があってもよいのではないか。

特別支援学校の実習では、知的障害であっても教員が気づかない身体の使い方をすることもあるため、報告いただけるとありがたい。

堤様

産業祭、シルバーリハビリ体操などを活用して地域住民へ展開していただき感謝している。

今後も連携して展開していきたい。市民介護予防のきっかけづくりになるように、実習を含めて連携していきたい。

縄井先生

ここを拠点として、シルバーリハビリ体操を展開していきたい。

研究も行い、発表に繋げていきたい。理学療法士としての核となる勉強も大事だが、就労支援など発展的な学習も大事にしていきたい。

飯塚様

学生の人数、男女比を確認させていただきたい。

中先生

全体で約140名

男女比：PTは男性が多く、OTは女性が多めである。

中村先生

OTは全国的に女性が多めである、PTは全国的に男性多めだが本学は女性も多くなっている。

飯塚様

早期体験実習について

特別支援学校での実習ということは小児が多いが、幼児があまりないのではないか。現在はインクルーシブ保育の時代なので。障がい児も同じ空間で学び多様性を育てている時代。

要望があれば、土浦市も含めて幼児部門の施設（私立の幼稚園、認定こども園）の実習協力ができると思う。

中先生

幼児の分野も早期体験実習の対象となるので、将来的にお願いしていくと思う。

浅川様

プレオスキー・ポストオスキーはどのように実施しているのか。

縄井先生

1年生

プレオスキーは感染症の知識とコミュニケーションを中心に実施。
オスキーという本をもとに実施している。

2年生

バイタルチェック、コミュニケーションと関節可動域、筋力測定を実施。
前期の科目の実習後オスキーは、テスト期間終了後の夏休みに実施している。

実習前後に行うようにしている。

中先生

就労支援、幼児部門の実習についてご意見いただけてよかった。
オスキーに関しても、マンパワーが少ない中で行っている。
いただいた意見を2、3年後のカリキュラム改定時に結び付けられるように参考にさせていただく。

7. 閉会

